

武田計測先端知財団、
国際開発学会「持続可能な開発とSDGs」研究部会(JASID-SDGs)



持続可能な開発と貧困・格差

2017年11月11日(木)

武田セミナー「持続可能な開発目標による変革への道」

国立大学法人茨城大学

人文社会科学部・准教授

野田真里

国際開発学会理事・持続可能な開発とSDGs研究部会
(JASID-SDGs)代表

Think globally, act locally を实践する、「行動する学者」

- 早稲田大学、同大学院、ロンドン大学LSE大学院、名古屋大学大学院等で学ぶ。
- NGO/NPO職員、名古屋大学教員等を経て現職。早稲田大学講師・客員研究員、筑波大学客員研究員、広島大学客員研究員、王立ブロンペン大学客員教授等を兼務。外務省、国際協力機構、タイ農業・協同組合省、NGO/NPO等の有識者委員・アドバイザー等を歴任。
- 各自治体の幹部研修、総合政策、NPO条例、NPOセンター設立運営、職員研修等多数。地元の区会（自治会）等でコミュニティ活動
- 日本・東南アジア・大洋州等、世界32カ国で研究・活動



専門分野は国際開発学、開発経済学、社会政策、NGO/NPO研究等。外務省ODA政策「カンボジア国別評価」アドバイザー、明日からカンボジア出張



本日のキーポイント

① 持続可能な開発のための3つの架け橋

- 1) **経済・社会・環境**の持続可能性の架け橋→持続可能な開発のための2030アジェンダ・SDGs
- 2) **先進国と途上国**の架け橋→持続可能な開発のための2030アジェンダ・SDGs
- 3) **世代間**の持続可能性の架け橋→「ブルントラント報告」
- Cf.ミレニアム開発目標(MDGs)との違い



SDGsと社会政策

- 「グローバル化が進んだSDGsの時代、社会問題に先進国と途上国の垣根はなくなった。社会政策は、両者に共通の貧困、教育、保健、労働、社会統合等の問題を扱わなければならない」
- David Lewis教授（ロンドン大学LSE社会政策学部長）
- LSE: 社会政策の学問発祥の地、世界の貧困研究の中心。「ベバレッジ報告」「ゆりかごから墓場まで」
- Cf. 経済開発（政策）と社会開発（政策）

貧困削減は持続可能な開発目標のGoal 1、「一丁目一番地 環境問題「だけ」ではないし、貧しい国の他人事でもない

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



【参考SNS】

(スマホ等からどなたでも閲覧可能です。検索してください)

Facebook page

- ・国際開発学会「持続可能な開発とSDGs」研究部会@jasidsdgs
- ・持続可能な開発・みえ@sdgsmie
- ・国連SDGs×イバラキ@sdgsibaraki

Twitter

- ・野田真里研究室@noda_lab

MDGsとSDGs

何が同じで、何が違うか？

途上国の
貧困と開
発



先進国は
「どう支援するか」
(かかわりは間接的)

ミレニアム開発目標
(MDGs)

目標数：8個

◆共通点

- 数値目標と期限を設け、達成度が計れるようにする

◆相違点

- 分野が広がる
- 目標・ターゲットの数も増大

開発(貧
困・教
育・保健
など)

環境(生
物多様
性、気候
変動な
ど)

産業(人
口、エネ
ルギー、
雇用な
ど)

日本を含む先進国も
直接の対象に。

持続可能な開発目標
(SDGs)

目標数：17個，
ターゲット169個
指標：約230個



「われわれの世界を変革する」ためには？

2015年国連総会で採択「持続可能な開発のための2030アジェンダ」

・タイトル「われわれの世界を変革する」

SDGs(持続可能な開発目標)はここに含まれる

・モットー「誰一人取り残さない」

- 持続可能な開発、サステナビリティ学は、最初から、環境問題だけではない。むしろ開発問題。人間社会の発展に伴って生じた問題。
- 三本柱：経済、社会、環境の持続可能性

「われわれの世界を変革する」ために、私たちに何ができる？

二つの視点：足元と地球、現在と将来

- 途上国の開発や支援は依然として重要
- 人口の大半は途上国、これからもどんどん増えていく。先進国は少子高齢化。中進国は「二重負担」
- 他方、もはや途上国だけの問題ではない。先進国もかわらないと、世界は変わらない。
- いまや、先進国と途上国の課題は共通。貧困、ジェンダー、気候変動等々
- 「現在は未来の母」(マハ・ゴサナンダ)

Double Burden(二重の負担)

①世界同時に発生、②相互に関連、③国内でも同時発生(特にタイ、ベトナムなど)→もはや「南北問題」だけではない

“古典的な貧困問題”
開発途上国

使用可能な資源の総量が大きな課題か

資源の配分の問題か

“高齢化社会＋低出生率”
新たな貧困・格差“

先進国

北村(2017)に加筆



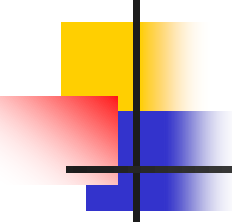
持続可能な＋開発

- 持続可能な開発Sustainable Development とは、読んで字のとおり、「**開発が持続可能である**」。
- 基本的には開発のあり方を問うている。**決して環境問題「だけ」ではない。環境「も」、コウノリ「も」**(兵庫県豊岡市「コウノリの飛ぶまち」)。持続可能な街づくり＝エコシティではない。
- 起源は「**持続可能な開発**」。人類社会の発展に伴い、開発のあり方を再考する必要がでてきた。
- **気候変動**は、CO2排出、つまり**経済的要因**が主。人間がもたらしたもの。
- では、「**開発が持続可能**」とはどういうことか？**そもそも、開発とは？持続可能とは？**→文化的背景を考える

開発Developmentとは？

文化的背景を考える

- 英語: Development=De+envelope
→封印されたもの、閉じ込められたものが開放されること。
- 日本語: 開発(かいほつ)=仏教用語。生きるあるものすべてに備わっている、種が開花すること。仏性開発(ぶっしょうかいほつ)=仏になる(悟りを開く)潜在能力が開花する。
- 個人、組織・団体、地域社会、市町村県、国、地球全体



SMAP「世界にひとつだけの花」 にみる開発(かいほつ)思想

♪世界にひとつだけの花、一人ひとり違う種をもつ。この花を咲かせることだけに、一生懸命になればいい♪

開発Developmentとは、潜在能力の開花。

→外から、上から一方的に押し付けられ、持ち込まれるものではない。「お上」の政策ではない、多様な主体の協働が重要。

→画一的な価値ではかられるもの、比べられるものではない。お金、偏差値etc.

→それぞれの社会の歴史・伝統、文化、風土、地理、社会のあり方等に根ざすもの。

→多様でそれぞれに尊い存在。「誰一人取り残さない」



持続可能Sustainableとは？

文化的背景を考える

- 英語: Sus+tain+able=「下、下位」+「保つ、含む」+「可能・できる」
 - 「下から支えて、踏ん張って、多様性を含み、保ち続けられる」。
 - 縁の下の力持ち。包括的、包容力。
 - 単なる現状維持ではない。
 - 伊勢神宮の「常若」(とこわか)思想。



「持続可能な開発」を語源にさかのぼり、文化的背景も踏まえて再定義すると

- 人間、組織・団体、地域社会、市町村県、国、地球等々の潜在能力を開花させる営みを、下から支えて、踏ん張って、包括的に誰一人取り残さないように、保ち続けること。
 - 「持続可能なまち、地域、社会等」よりも「持続可能な開発」のほうが動的・ダイナミックで意味も深い。
 - 持続可能な開発は、上からおりてくる、押し付けられるものではない。
 - 多様で、内発的、自発的、協働的なもの



日本文化、アジアの智恵にグローバル危機を乗り越えるヒント

- 持続可能な開発は、優れて日本文化に根ざしたものの。単なる国連文書、海外の輸入思想ではない。
- 持続可能な開発は常若開発(とこわかかいほつ)
- 少欲足知、吾唯足知(龍安寺のかきつばた)
- 「足るを知る経済」Sufficiency Economy(タイ)
- 国民総幸福(GNH)、ブータン



持続可能な開発とは？

本質的には世代間の開発の問題

- 国連「環境と開発に関する世界委員会」(WCED=ブルントラント委員会)、『Our common future』(1987)
- **定義**:「将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開発」→世代をこえた開発が課題
- 国連環境開発会議(UNCED=地球サミット)、『Agenda 21』(1992)
- 国連ミレニアム総会、『Millennium Development Goals(MDGs)』2000
- 国連世界持続可能な開発サミット(WSSD、Rio+10)、『Johannesburg Declaration』(2002)
- 国連「持続可能な開発」総会、『Transforming our world: 2030 Agenda for Sustainable Development』2015



地球社会・地域社会は持続可能か？

- (持続可能な開発は環境問題「だけ」ではないし、貧しい国の他人事でもない)

→3つの持続可能性の架け橋

- 社会政策の諸課題を具体的に見てみる

→貧困・格差、労働、ジェンダー、少子高齢化、移民、社会的排除等



地球社会・地域社会は持続可能か？

世界人口のうち、下位半分(36億人)の富と同じ資産を世界トップの何人のお金持ちが占めているか？(Oxfam 2017)

→グローバルに進む格差

→日本でも、近年、雇用の量は改善されているが、質は改善されていない。

→低労働生産性、過労死、低労働分配率、低賃金上昇率等



地球社会・地域社会は持続可能か？日本は先進国か？

- 日本の貧困層は？（OECD基準）
- 世界の飢餓人口は8人に一人（9億人）では、日本は？
 - 貧困・飢餓問題はもはや貧しい国だけの問題ではない。日本のほうがむしろ深刻。



日本は先進国か、地域は持続可能か？

- 日本の生活保護受給者数は約214万人。では、生活保護水準以下なのに生活保護を受けられない割合は？（補足率の逆）
 - 日本の年間の自殺人口は全死亡者のうち、何人に一人？孤独死もほぼ同じ割合
 - 地縁、血縁、(社縁)等コミュニティのセフティネットも機能しない。



日本は先進国か、地域は持続可能か？

→限界集落、区会（自治会）等の加入率低下。
。限界集落は農漁村部だけの問題ではない。

Cf.区会（自治会）会長、マンション管理組合理事長の経験。担い手不足

つくば市ですら都市部でも（ニュータウン等）。
公務員宿舎の廃止により人口の流動性が損なわれており、今後さらに深刻化。

→公助（行政等）、共助（コミュニティ等）、自助（家族等）の課題



日本は先進国か、地域は持続可能か？

- 日本のジェンダー（男女平等）・ランキング（世界経済フォーラム）は？

→人口の半分をしめる女性、人口を再生産する女性が活躍できていない。労働生産性が上がらず、労働力不足になるのは当然。

→逆に、ポテンシャルがあるともいえる。

→途上国は？



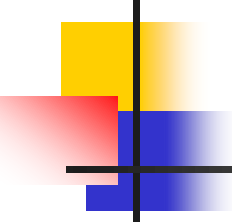
日本は先進国か、地域は持続可能か？

- 過労死は国際労働機関ILOで英語でなんとよばれているか？

→この夏、出張したスイス等では夏休みは2～3週間は当たり前。定時で帰る人も多い。日曜日は店舗もお休み。

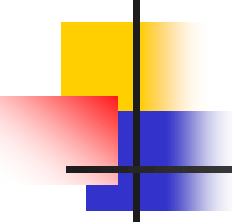
→低い労働生産性(産出/労働投入)

労働投入:人口、時間、期間、人口、労働の質等



日本は先進国か、地域社会は持続可能か？

- ・例えば、この夏、SDGs講演会で招かれた、豊岡市の少子高齢化は深刻。一番人口が多かった約10万人(1947年)に対し、現在約8.5万人。では、43年後、2060年の推計は？
→「神輿型」社会から「騎馬戦」型、そして「肩車」型へ。遠からず、「そば屋の出前」型？



日本は先進国か、地域社会は持続可能か？

・日本に移民・移住労働者はどれくらいいるか？つくば市の人口(22.7万人)の何倍？

→さらに、外国人技能実習生、留学生。ほとんど現代の奴隷制。

→日本の産業、とくに農林水産業、物流・サービス業、製造業等はこれらの外国人労働力なしには成り立たない。茨城県は全国で、農業生産2位、県民一人当たりGDP5位、産業立地5年連続1位。この豊かさを誰が支えている(これから支える)のか？

なぜ、日本で、地域社会で持続可能な開発か？

もはや他人事ではない、われわれの生活の問題、地域社会は最前線

- グローバル化の進展の中で、日本は、日本の地域社会は、私たちの日常生活は**世界と密接不可分**、国内と国際を分けて考えられない。
- 途上国と同じような社会構造や経済、社会、環境の問題が日本の地域社会(茨城県等)でも存在、**人類共通の課題**。生活の場である地域社会に典型的に現れる
- 世界の次世代にかかわる持続可能な開発の問題を**日本の地域社会が先取り**している点も。少子高齢化、過疎化・限界集落、無縁社会・孤独死・自殺、多文化共生、(こどもの)貧困・生活保護等

われわれの世界を変革する Transforming our world

—地域社会は最前線—

- 私たちの生活の場、地域社会からの活動、絆 (social capital)の強化が鍵
- 「世界を持続的かつ強靱(sustainable and resilient)な道筋に移行させるために大胆かつ変革的な手段をとる」
- 三つの持続可能性: 経済・社会・環境の三つの持続可能性
- 5つのP: People(人々), Planet(地球), Prosperity(繁栄), Peace(平和), Partnership(協働) →SDGs17パートナーシップ



日本は「課題先進国」 地域社会は持続可能な開発のフロンティア

- 日本は間違いなく「課題先進国」。
- 世界の様々な問題を先取りしている。日本の教訓が世界に生かされる。
- 地域社会はその最前線。問題が凝縮して発現
- 地域が変われば日本が変わる、世界が変わる

「誰一人取り残さない」(SDGs,宮沢賢治)

Leave no one behind

—地域社会は最前線—

- 一人ひとりの生活が、地域社会が変わる \longleftrightarrow 世界が変わる！
- おれたちはみな農民である ずるぶん忙がしく仕事もつらい もっと明るく生き生きと生活をする道を見付けたい
- 世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない。自我の意識は個人から集団社会、宇宙と次第に進化する。
- この方向は古い聖者の踏みまた教へた道ではないか。
- 新たな時代は世界が一の意識になり生物となる方向にある 正しく強く生きるとは銀河系を自らの中に意識してこれに応じて行くことである。われらは世界のまことの幸福を索ねよう。 求道すでに道である (宮沢賢治)

地域から地球へ、 私たちから子どもたちへ

地球規模で考え、
地域から行動しま
しょう

Think globally, act
locally

